

長崎市長選 まぢかに迫る (4/23)

平 7 年 6 - 7 歳
国立婦人学館
婦人教育情報センター

市長候補者たちは男女平等の問題を どのように考えているのだろうか？

ということで、私たちは現在 (4月3日) 立候補を表明している4人の候補者のもとへ下記の公開質問状を持ってきました。

どんな回答が返ってくるか、今からとても楽しみです。

私たちはその内容を検討して、市長として最もふさわしいと思われる人に投票したいと考えています。

市長候補者への公開質問状

1. 男女共同参画社会を長崎で実現させるために、どのような政策を考えていますか。
2. 市役所の女性管理職を何%まで引き上げる計画がありますか。またクォーター (割り当て) 制を導入する考えがありますか。
3. 市役所内における”お茶くみ”を全廃するつもりがありますか。
4. 長崎市の小・中学校で”男女混合五十音順名簿”を取り入れるつもりがありますか。
5. 「ミス長崎」コンテストをまだ続けますか。
6. あなたは妻のことを何と呼びますか。妻はあなたのことを何と呼びますか。
7. あなたはどんな家事をしていますか。

今年もまたや女が後の公立高校 合格者発表

公立高校合格者速報

長崎工業

初日新聞リレーインタビュー

長崎商業

初日新聞リレーインタビュー

▽工業化学科Ⅱ寺田実人、吉屋友紀、原慎一郎、中尾昌、山田明、杉本雄二、坂本哲哉、原口敏幸、宮本浩樹、福島義徳、田中俊毅、松永光昭、宮川公、濱上ほく斗、市来真木村祐一、山口耕平、吉田進一郎、飯島高志、山下竜昇、那須忍雄、前田拓也、柴田優介、田川重夫、青山国広、志田孝、山口雅史、中尾亮、川崎、嶋田章吾、森高桐聡、脇川世祝、田中真也、川浦和幸、原正延、林淳平、小嶋奈津美、志岐美智子、川口麻衣子、松本真貴、▽インテリア科Ⅱ野田祐輔、永田優、本田貴志、梅木雅也、小川洋介、飯塚慶彦、村山康晃、中村健、木原重司、橋口貴司、山崎勝美、松下恒一郎、中村準士、山本里絵子、高比良詩穂、高比良香織、田平由美子、山根麻美、森千穂子、塚原友美、……

▽国際経済科Ⅱ平野康二、森永大輔、川道洋之、青木政人、木村広大、石本由紀、洲加本恵、溝口幸代、中島由紀子、内田直子、水谷明子、竹中恵美、宇野千春、吉田奈緒美、泊亜矢子、小山知子、森純子、松尾梓、辻原清香、松下奈美子、渡辺奈津子、佐藤ふじ子、坪内佳奈子、富井理恵、上高裕美、盛田絵夢、酒井祐子、前田良子、富永美佐子、江崎春菜、中村友美、森崎悦子、納富淳和、山口幸子、田中千恵、峰香奈美、榎田美幸、鬼海靖子、馬場有美、田澤美穂、竹中綾（以上四一一名）

▽情報処理科Ⅱ新宮陵照、森真人、藤野敏将、富原洋平、額川知弘、平島誠、林田敦志、森谷圭一、井上隆博、宮崎光太郎、浦辺洋一郎、浜崎悠谷内雄一、原浩一郎、石崎弘樹、隈部和樹、金子志穂、三浦瞳、川上真美、西田美穂、川村純子、……

ちょうど1年前の四月、私たちは公立高校合格者速報の新聞記事を携えて、長崎県教育庁学校教育課へ行き、「なぜ公立高校は男子が先、女子が後の名簿で合格発表をするのか」とたずねました。その回答は「合格者名簿は各学校が独自に決めるものでこちらは一切指導していない。また男が先、女が後という法的なしきりはない」というものでした。それに対して私たちは「常に女が後という名簿は女から見れば差別である。だから教育庁こそ男女平等の基本理念として混合名簿を各学校に指導すべきである」と要望しました。（詳細は会報No.148に掲載）

しかし、しかし、またもや今年も男が先、女が後の合格者名簿でした。どうして、どうしてなの？

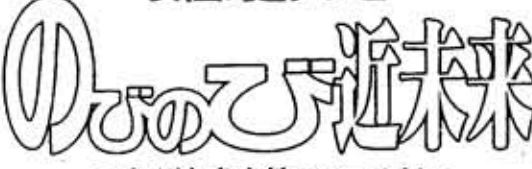
これはたぶん受験番号が男女別になっているからでしょう。例えば男子は1番から女子は1001番から始まると聞いたことがあります。昨年の学校教育課の回答では7クラス分けの利便のためということでしたが、現代はコンピュータ時代。どうしても男女半々のクラスを作りたいということであれば、どうせパソコンに合格者氏名をデータ入力しているので、その時点で男女別名簿はすぐに作成されるはずです。学級編成や体育のためだけに受験番号も合格者発表も新聞記事も全て女子を後にするという

のはやっぱりおかしいと思います。だって反対を考えるとわかるはず。1番から女がずーと続き、1001番から男が始まれば（特にそれが学校生活の常であれば一層）男性たちも「差別だ！」と声を上げるでしょう。

両性の混合名簿は国・県・市がめざしている男女共同参画社会実現の第1歩なのです。それならばぜひ行政は教育庁と連携し、学校現場に働きかけて混合名簿をとり入れてほしいと思います。



女性問題テレビ



～ながさき女性フィールド～

第15回 学校での男女平等

のビデオを作成しました！

前号（No.157）で紹介したT.V番組「あひのび近未来—第15回学校での男女平等—」のビデオを作りました。たった15分の番組ですが、男女混合名簿の意味と意義を正確に把握し、しかもわかりやすく表わしていたことが、大変好評でした。そこで私たちはもっと多くの人たちにこの番組を見ていただき、両性の混合名簿に対する理解をより一層深めてもらいたいと考えてビデオを作りました。そこでビデオをご希望の方は郵送料500円でお送りしますので、下記の住所に500円分の切手を同封の上、お申し送り下さい。

〒 記

津田尚美方

ばってん・うーまんの会

ばってん・うーまんの例会、こんな話も出ています。



少年というとき女が入る。では少女というとき男は？

我家に近い小學校へ行ったら「3月/日は少年の日」という大きな看板が目についた。
さっそく學校に電話した。教頭先生「少女の日はありません。県の青少年保護育成条例で少年
と言うのに少女も入っています。青少年の中に少女も入っている。それなら少年としました」

男という人間。少年というとき女も入る。でも少女の中に少年は入っていない。

オス土曜日は「わがが少年デー」ラドセのな日。の取組みが長崎市では3年間つづいた。
犯罪法では「少年法」に少女も入っている。

さうに教頭先生はあやういした「生徒が言うんです。少女の日はないが、かたて」
法律、お役所用語の「少年」という言い方はやめてほしい。少女の側から言うと「私連入っていない！」
男は何を思っている。でも女は思っている。それなのに男社会の中で見過がれている。

「好ましい青年ですね」という時。女は含まれていない。

女を人間だと思っていない。男社会を感じる。
.....

今年、ばってん・うーまんの会がお贈りする

女34才映画
作りの旅に出る

映画「ルッキング・フォー・フミコ〜女たちの自分探し〜」

上映会(栗原奈名子監督講演付)のお知らせ

私たちの会では、これまで「日記帳『女の13年』の収益金を、女性問題に関する本の購入
にあて、「ばってん・うーまん文庫」として長崎市中心公民館に寄贈してきましたが、
今回はその収益金で、映画上映を企画しました。

この映画は、栗原監督がニューヨークで知り合った「フミコさん」という素敵な女性が
若い頃深く関わった「ウーマン・リブ」とは一体何だったのかということ、フミコさんの友人たちを
通してたずね歩くドキュメンタリー・フィルムです。1970年代初め日本全国を席巻した
あの「ウーマン・リブ」運動を今一度思い起こしていませんか？あまり知らない方はこれを
機会に学んでいませんか？映画上映後、栗原さんとのフリー・トークも設けています。
ぜひ、お友だちを誘って見に来て下さい。お待ちしております！

6月28日(水)PM.6:30〜映画 7:40〜9:00 講演

NBC ビデオホール 入場料 500円

超格安だよー

